



讃仰講演会 ケネス・タナカ氏 (武蔵野大学教授)

2014年2月10日

仏教に目覚めるアメリカ人 ―現代化する日本社会(仏教・真宗)への示唆となるか?

【はじめに】

皆さま、こんにちは。ご紹介の中で、静岡の方では真宗寺院が少なく、禅が多いということを全然知りませんでした。曹洞宗が相当多いそうですね。この調子でちょこちょこ言いますので、ぜひ笑ってくださいね。仏教を悟る人は、心が豊かになって、心が軽くなって、ユーモア的な考えになる人が多いと思うのです。一休さんもそうですし、浄土真宗の妙好人の中でも、結構ユーモアっぽいことを



を自然に発言するようになると思うのです。仏教を勉強するから何か難しいことしか言わないというのは、私はまだ中途半端だと思います。難しい勉強とかを通して何か開けていく。それが開けていって豊かな人間になる。そういうのが仏教だと思います。

現在の日本は政教分離が行き過ぎていると思います。宗教も一つの人間の営みですから、公共の場で語ったり知るということを禁じる。日本の社会では、宗教に入るとまわりが見えなくなるなどという見方

があるようですが、偏見だと思いますね。

そういう点でアメリカとは大きく違いますね。ですから、アメリカで仏教を説くということは、ある意味で易しいというか、説きやすいかもしれません。アメリカ人は、とても宗教に対して尊敬の念を抱きます、お坊さんや聖職者に対して。学者と比べますとね、学者のことはもちろん、大学の先生として生徒らから尊敬されていますけれども、どちらかという聖職者、お寺のお坊さんや牧師さんのことを心から尊敬します。そういう面でアメリカ人は、宗教に対して日本のような偏見はありませんね。

もちろん、昔の日本も同じように宗教、仏教、僧侶に対する尊敬というものがあったと思われませんが、近年は残念ながら変わりつつあります。それで、アメリカでは宗教に対して興味を持ち寛大であるのでしょうか、仏教が、実はここ40年の間に17倍以上増えてきています。それでレジュメの最初のところで、私は結論を一つにまとめております。

【仏教に目覚めるアメリカ人】

アメリカの仏教徒は、この40年間で17倍も増え、全米人口の1.2%にあたる350万人となっている。彼らに加え、仏教徒とは断言しないが、仏教的行動をとるナイトスタンド・ブディストや仏

○ 御遠忌通信



教に強く影響された人々を含めば、全米人口の10%（3千万人）という驚く数になる。21世紀の半ばには、ユダヤ教を抜いて米国第二の宗教となるであろう。このすさまじい伸びの現状と原因を明らかにし、日本仏教、特に真宗が直面する課題の改善策へのヒントを考えることにしたい。アメリカ仏教の歴史は、日本の10分の1しかないが、最初から「現代」宗教であったことが、日本仏教にとって参考になることが期待される。

みなさん驚かれるかもしれませんが、私が中学生の1963年頃、「あなたの宗教は何ですか」と聞かれたときに、私は既に仏教会に通っていましたが、とても恥ずかしく自信がなくて、小さい声で「私はこの町の仏教会に通っています」と呟くように言うくらいで、堂々と大きな声で「私は仏教徒である」と自信を持って言うことができませんでした。それはなぜかというときは仏教がほとんど知られておりませんでした。アジアのカルトぐらいに思われておりました。しかし、今はガラッと変わりました、特にカルフォルニアや東海岸のような進歩したところから仏教徒が増えていきました。

仏教徒というのは少し格好良いくらいの面がありまして、著名人のなかにも仏教徒がいらっしゃいます。例えばリチャード・ギアやタイガー・ウッズも仏教徒です。それにナイトスタンド・ブディストがあります。これは、要するに、仏教徒と断言しないけれど、共感者、同調者のことです。アメリカのナイトスタンド・ブディストは仏教のことをよく知っています。本もたくさん読み、講座にも行きます。家ではメディテーションもします。ただ、私は仏教徒であると決めたくない、断言したくないけれど、仏教に惹かれているのです。先入観を超えていくことを目的にしてナイトスタンド・ブディスト（同調者）になる人たちがかなり増えてきて、そのなかには仏教徒であるリチャード・ギアやタイガー・ウッズ、バスケットボールの監督フィル・ジャクソン、亡くなられたスティーブ・ジョブスも仏教徒と言ってよいでしょう。

私の子どもたちはアメリカに住んでいますけれども、「あなたの宗教は何ですか」と問われますと、「私は仏教徒です」と堂々と答えているのです。私の子どもの頃とは状況が変わりまして羨ましいですね。ですから、ガラッと変わったことを意識していただきたいのです。

これは仏教の歴史の中ですごいことなのです。なぜかというときは仏教は、2600年近くの歴史の中で、西洋に渡っていないのです。1960年以降に、一般の人たちが仏教徒になり始めたのです。数としてはごく僅かですが、それでも1%近くです。日本のキリスト教徒は1%、アメリカの仏教徒も1%です。対等ですね。アメリカにおいて仏教徒の数がキリスト教を追い越すようなことはないと思いますけれども、徐々に増えていくことに期待をしています。アメリカでは、ユダヤ教が第二の宗教です。割合としてはぐっと少なくなりますけれども、アメリカでは75%がキリスト教徒、ユダヤ教徒は2%です。ですが、ユダヤ教徒はアメリカにおいて非常に影響力があります。アメリカで2%のユダヤ教徒が第二ですが、2050年くらいになりますと、仏教徒の数の方が増えていくと考えてい

○ 御遠忌通信



ます。

【現代化社会の五つの特徴】

さて、日本社会についてですが、日本社会とはかなり大きいことなので、講題にありますように「日本社会（仏教・真宗）」としております。日本社会と日本の真宗、仏教とは別なことではありません。第一に、現代化の中で社会はどのように変わっていくかということです。それには平等化・理性化・多様化・世俗化・個人化の5つの特徴をあげております。これは、皆さんも納得ができると思います。

平等化とは、男女平等、在家と僧侶も平等になってきております。ご門徒さんの中にも専門性を持った方が結構いらっしゃいますよね。ですから、昔のような僧侶が上で在家の人が下ということはおかしな話なのですね。専門性としては、僧侶の方は仏教のことをよく知っておられますけれども、経営については門徒さんのなかによく知った方がいらっしゃると思われます。そうしたことから、僧侶も在家も平等、男女も平等なのです。

理性化といいますのは、科学を優先する高い教育水準になってきております。日本でも、50%の高校卒業生が大学に進んでいます。内容も理性というものが強調されます。

多様化というのは、グローバル化と言われるように多様な人種、多様な考え方が共存しております。日本はそれほどでもないかもしれませんが、徐々にそれも変わっていきます。日本人の中でも価値観が多様化しております。昔のように画一ではありません。

世俗化というのは、昔は宗教の力が強く、影響力がありましたが、現代は宗教の影響力が低下してきている。その結果としては政教分離があります。政治と宗教が分離されている。先ほど私が申しましたように日本は行き過ぎだと思うのです。宗教家は、政治の諮問委員会に関わってはいけない雰囲気があるそうです。これ、おかしい話ですね。少し難しい話になりますけれども政教分離として、そういうことを禁じることはおかしいと思います。政治が宗教を弾圧してはいけません。特定の宗教を弾圧したり、あるいは特定の宗教を擁護してはいけません。それが政教分離です。宗教家が政治に関わっても問題ないはずで。実は、公明党がそのようになっておりますね。法律的には問題がありません。

①平等化②理性化③多様化④世俗化⑤個人化といった5つのものが、現代社会の特徴としてあげられます。つまり、仏教も真宗もこれに対応していかなければいけない、考慮しなければならないということです。

【アメリカの宗教人口】

アメリカ仏教は凡そ、150年間しか歴史がありません。なぜ、日本の1500年の歴史がある仏教徒が、アメリカの話を書く必要があるのかと言われるかもしれません。日本と異なるところは、アメリカでは最初から、現代宗教、現代に始まった仏教なのです。日本は古代・中世・近世・現代とな

○ 御遠忌通信



っていきましたが、アメリカは最初から現代化した仏教なのです。そういうことから、いま、現代化する日本社会にとっては、現代化したアメリカの仏教が参考になるのではないかと考えられます。

それで、現状としてアメリカの宗教人口について、キリスト教徒は75%、ユダヤ教徒が2%、仏教を含む他の宗教が4%です。注目したいところは、無所属が19%なのです。これは40年前にはたった1%だったのです。神を信仰しているということがあるかもしれませんが、宗教としてどこにも所属していないという人が最近増えているようです。若い人たちに至ってはもっと無所属の人が多く、恐らく33%ぐらいです。アメリカも宗教的な社会と申しておりましたが、少し変わっていくと思います。

仏教人口では、仏教徒と仏教同調者、そして仏教に影響を受けた人という具合に3つの種類があると考えた方が良いでしょう。

仏教徒という言葉の定義は大変難しいですね。一般に「あなたは仏教徒ですか」と尋ねますと、答えに戸惑う人が多いと思います。例えば「私の家は仏教ですけど」という具合に答えられる人が結構多い。また、増えると思います。私が考える定義としては、仏教徒という人は、自分が意識的に仏教徒としていて、同時に仏教的な行動を起こす人のことです。そういう方々が1.2%、350万人いらっしゃいます。

次に仏教の種類についてですが、日本ではほとんどが日本仏教ですね。けれども、アメリカはすべての仏教があるのです。タイ国からチベット、中国からたくさん入ってきております。すべての仏教がアメリカに入ってきておりますから、非常に興味深いのです。あるロスのお寺に行きましたら、それは南方仏教を説くタイ国の寺院でした。そうしたら道の向こう側に韓国のお寺があるのです。さらにその道を1Kmぐらい下がったところに日系のお寺があるのです。すぐ近いところにタイ国の寺院があり、韓国の寺院があり、日系の寺院がある。こういうことを考えると多くの仏教が共存しているということがわかります。昔に比べて仏教が増えています。

【アメリカ仏教の四つの分類】

アメリカ仏教は四つに分類されます。まず、第一分類として19世紀にわたってきたアジア系の仏教徒。これは、日系と中国系のことで、約35万人です。

第二分類は1960年代以降、戦後のアジアの国々、特にベトナムや台湾からの仏教徒が増えました。175万人と一番多いですね。

改宗者として注目されるのが、第三分類となる「瞑想を中心の行とする改宗者」130万人と第四分類「題目を称える事を中心な行とする改宗者」10万人です。特に前者は、三つの伝統、禅、チベット仏教、南方仏教です。これらの共通点はメディテーション、「瞑想」です。瞑想を中心とした宗派に改宗者は集まる傾向があります。そして後者は題目を称える、いわゆる創価学会のことです。創価学会はそれほど多くはありませんが、ただ一つの教団としては有力です。

○ 御遠忌通信



以上のように分類されます。浄土真宗はアジア系仏教徒の第一分類に入ります。

【アメリカ仏教の特徴】

それでは、「特徴」についてですが、先ほど申し上げました「第三分類」を中心としてアメリカ仏教の象徴として考えてまいりたいと思います。なぜかといいますと、第三分類は元々ユダヤ教徒かキリスト教徒でほとんどが白人です。分類の一と二はアジア系の人たちですから、アメリカ仏教はどのような形かという第三分類になるからです。その第三分類を考える特徴は9つありまして、第一は平等化です。先ほど社会が平等化していると申しました。アメリカ仏教の改宗者のなかには、非常に平等化されて在家が中心であって特に女性の先生が多いのです。ある教団によると半分が女性の指導者です。これは非常に良いことだと思います。なぜかという、女性の方が男性よりも日常に即した仏教を説きます。つまり、見る視点が違うのです。伝統だけが中心となってそこに胡座をかいて「我々はすごいのだよ」と思わせぶりに説教や法話を行ってもアメリカ人は納得をしなければついていきません。ですから、日常的にも有意義であるということをお説かないといけません。それから、同性愛者の人たちも仏教に影響され、惹かれるようです。仏教は同性愛者を差別しないですからね。チベット仏教は平等的ではない面がありますが、その点につきましては浄土真宗の方が平等的であるといえます。

【メディテーション（瞑想）の魅力】

第二番目に重要なところで、なぜアメリカ人が仏教に興味を持つかということ一言で言えます。それは、メディテーション、「瞑想」です。やはり、キリスト教には無い行なのです。キリスト教にはお祈りがありますが瞑想はありません。昔、修道院などでは瞑想的なことが行われていたそうですが、現在、一般にアメリカでは、キリスト教徒のなかで瞑想が行われることはありません。

そして瞑想は、日本では座禅として知られています。やはり、何かやりたいのですね。ただ信じて教えを学ぶだけじゃなく、体を使って自分を変えていきたいという欲求があるのではないのでしょうか。よく言われますことは、キリスト教にもしっかりした教えはあるけれども教えばかりで頭でっかちになって、教義で終わってしまう面があります。しかし、仏教は瞑想することによって変わっていく、心を落ち着かせる。そういう要素に惹かれる人がいるのです。

そして、スピリチュアルという言葉が聞かれたことがあると思いますが、一「靈性」と訳します—アメリカ人の中には「私はスピリチュアルであるけれども、宗教的ではない」という人がいます。この違い分かりますよね。スピリチュアルというと宗教の根幹のことについては興味があるけれども、宗教に関わる組織、会員になる、寄付をしないといけない、お寺では義務をもたされるというような、そういう組織的なことには興味がない。しかし、宗教の根幹のことについては興味がある。これをスピリチュアルという言葉を使います。日本では、スピリチュアルという言葉はいろんな面で使われて

○ 御遠忌通信



少し怪しい面もありますけれども、私は純粋な宗教体験の意味として用いております。釈迦の覚り、親鸞の信心などをスピリチュアルと表現しております。ですから、瞑想することによってスピリチュアルな面を養成していけるのです。

もう一つは瞑想に興味を持つ理由として宗教以外のところでも瞑想が行われているのです。ストレス軽減を目的としてマインドフルネス (mindfulness) という瞑想の一種ですけれども、心を落ち着かせることに興味を持つ人が増えています。これは、宗教の枠を超えて病院や心理療法に瞑想を取り入れて使っています。このように瞑想は仏教だけではなく、宗教の枠を超えて興味を持つ人が増えてきています。私は、アメリカで中学校や高校にお話しに行っていたときに、お話しばかりすると退屈ですから、瞑想をさせると子どもたちも大喜びで、先入観なく一生懸命やりますね。刑務所でも瞑想をさせることがあります。アメリカでは、浄土真宗のお寺でも瞑想を始めているところが結構あります。

【社会参加 エンゲイジド・ブディズム】

次に社会性参加、英語でエンゲイジド・ブディズムという言葉は聞かれたことがあると思いますが、要するに個人の心の悩みだけではない、宗教が本格的な宗教であれば社会に出て困った人、悩んでいる人のために役立つのが宗教である、それができないものは宗教ではないという感覚がアメリカ人の中には強いです。

日本では^{あんじん}安心派と社会派の区別もあるようですが、そういう区別すらおかしい。どちらかという信心が定まれば必然的に社会に出て行く。それは法を説くとか、貧しい人のために何かを行うとか、一般の人の悩みに応えるなど、これらはお寺で行うことです。ですから、アメリカ仏教というものは、第三分類では葬式や法事をほとんど行いません。では、収入をどこから得ているかという、日常に即した教えを説くことによって人が惹かれてくる、それを聞いた人たちが寄付をするのです。私が一度こうした場に招かれたとき、講師の謝礼は、お寺が出して下さるのではなく、お話しを聞いた人が講師が帰るときにバスケットの中にお金を入れてくださるのです。お話しがよければたくさんいただけるけれど、話の内容がよくなければ何も貰えないかもしれません。要するに、お葬式などの死者儀礼による収入では、お寺は成り立たないのです。活きた仏教を説いていかなければ成り立っていない、その一角が社会性、社会参加であります。

浄土真宗の『歎異抄』の第四章では、聖道門と浄土真宗の考え方は異なる、仏になってお浄土に至って他者のために尽くしましょうという考えがありますけれども、これは宗教性としては正しいです



○ 御遠忌通信



が、現実的な問題としてはこういう理論は横に置いた方がよいと思います。

第四番目の超宗派性ですが、宗派的にはあまり壁がありません。お互いの宗派の人たちが互いに招き合って話を聞くことが行われております。

第五番目の個人化宗教といひまして、現代社会の一つは個人化しています。アメリカでは一つの例として、昔はピクニックを1年に平均7回、人々は参加していたのです。ピクニックというのは協同的な営みですね。それが今では1年に2回くらい参加する程度なのです。つまり、日本と同じように共同体、共同生活、地域生活というものがほとんど崩壊しているということ、個人化しているのです。宗教もそのような動きに対応しなければいけない。

個人化した宗教的な現象の一つがメディテーションであると私は考えています。メディテーションとは個人で行い、ほとんどの人は自分の家で行うのです。特にお寺や教会に行かなくてもスピリチュアルな面を養成できるということでメディテーションが興味を持たれるのです。ただこれも極端になりますと問題ですね。個人だけで生きていると思うのは問題ですから、アメリカでは個人化した社会に対応はするが、「仏・法・僧」の僧伽（さんが）も重要であることを説いています。

【科学と矛盾しない仏教】

第六番目は、科学と矛盾しないということです。皆さんアインシュタインという科学者をご存知だと思いますが、このアインシュタインは仏教に見識の高い方でした。未来の宗教は、廣大無辺の宗教であるといわれます。アインシュタインが言うには、宗教には三段階あるのだそうです。1番目に畏れの宗教。怖がって宗教に入信するもの。2番目には道德の宗教です。これら畏れの宗教や道德の宗教は過去の宗教です。これから必要な宗教は廣大無辺な宗教なのです。それは科学とスピリチュアルのところが合体した教えを説かなければいけない、要するに科学と宗教が矛盾しない宗教でなければならぬ。これを廣大無辺の宗教、コスミック (cosmic) という言葉で表現します。そしてその第一の例として1920年代にアインシュタインが示されたように科学者の間では仏教と科学は矛盾しないと言っているのです。『物理学の道』という有名な本もそのような点を強調しています。ドライ・ラマも科学と仏教は矛盾しないということをしきりに説いていらっしゃいます。そういう話を聞く人たちが次第に仏教に惹かれていくのです。真宗も浄土と科学をどう考えるかといひますと、基本にお浄土とは科学の世界の話ではありませんから矛盾はしないと思われまので、真宗においても矛盾する面を感じますが、総じて矛盾はしないと言えます。

【仏教と心理学の類似性】

次に心理学についてであります。アメリカ人の改宗者の4分の1から3分の1の人は、心理療法やカウンセラー、心理学に携わっている人が多いと思われま。それほどアメリカ人が仏教を取り入

○ 御遠忌通信



れるときに心理学として取り入れる人が多いと思います。私自身、日本仏教心理学会に関わっておりまして、これも仲間と3人で5年前からスタートさせたのですが、日本でも興味を持っていただいて会員も増えております。皆さんも遠慮なく、興味のある方は連絡下さい。

心理学にもいろいろありまして、第三レベルの人間心理学（ヒューマン・ポテンシャル・ムーブメント）、ユングやロジャースなどの系統は仏教と非常によく似ている面があります。これについて私は機関誌『在家仏教』で夏ごろ発表する予定になっていまして、非常に面白い課題です。日本でも、私は仏教と心理学の合流は伸びていくと思いますし、私は、日本の仏教は心理学をある程度導入すべきだと思います。それは、しっかりした自我を形成しないと無我に至らないのです。仏教ははじめから自我のことを否定して無我を強調しますが、そうではなくて段階の問題を考えて「未我→自我→無我」のサイクルを考える必要があります。赤ん坊ははじめ未我の状態でだんだん成長して伝統的な自我が芽生え、自我が成長していかないと無我の境地に至らない。ところが仏教ではあまり触れていないですね。こういう面において現代社会に新しい学問も取り入れて無我を強調すること自体がどういう意味を持つかを現代社会において考えなければなりませんね。ですから、自我をとおして無我を得る、仏教は自我を手放すという理解ですけれども健康的な自我を持っていない人は自我を手放さないです。ナルシシズム（不健康な自我）とはそういうことです。

【この世・今の重視】

アメリカ仏教はこの世、今を強調するのです。無常の捉え方について考えてまいりたいのですが、基本的に仏教ではなぜ、諸行無常ということをお説くのでしょうか。それは、物事は諸行無常だからあてにならない。それにとらわれない、それに執着しないということでしょう。この考え方は正しいのですが、アメリカの仏教徒の中では、諸行無常だから手放すということもいいますが、「今」を強調しましょうと考えるのです。過去は過ぎ去った、未来は未知である。けれども、「今」という瞬間は宝もの、授かりものである。ですから、プレゼントだということです。ここで面白い諺があるのですが、プレゼントというのは2つの意味があります。「授かりもの」という意と「現在」という意味があります。ですから、日本でもそのような捉え方が始まっていると思います。諸行無常は悲しいことではない、空しいことでもない。『平家物語』にもでてまいりますね。日本人の多くの人たちは、諸行無常というところと何か悲しいことであるという先入観がありますね。けれども諸行無常はどんどん変わっていく。ですから過去にこだわらない、将来にこだわらない。今、目の前にあることを精一杯生きましようというような捉え方をしています。若い人にとってはこういう捉え方は非常に魅力的だと思います。

もう一つ魅力的なところがあります。それは、私が大学で教えている18歳の学生に対して、諸行無常だから、「今苦しんでいてもずっとは続かないですよ」と言っております。若い人は悩んでいることが続くように思われがちですが、そうではない。「いつか変わりますよ」と言うのです。そうしたら

○ 御遠忌通信



希望が持てるのですね。諸行無常についてはいろいろな方向から現代人に有益に説いていくことができると思うのです。ただ、若い人にも言うことは、「今を悩んでいることが変わっていきます、よくなっていきます」と…。「しかしまた、悪くなりますよ」とも言います。そこまで言います。それが「人生は凸凹道なのだ、思い通りにいかない」ということを話します。

【仏教ユーモア】

最初に話しましたユーモアと言って、アメリカ仏教の中では仏教ユーモアということが盛んです。ダライ・ラマという方は非常にユーモラスな方でとても魅力的です。一度、あるインタビューで「法王は、生まれ変わりの第14世でいらっしゃるんですが、前世を覚えていらっしゃるかどうか」という問いを受け、そうしましたらダライ・ラマはニコニコされて頭をかきながら、「前世を覚えているかどうか、じつは最近は何世どころか、昨日何をやったのか覚えていないのですよ」とお答えになったそうです。このようにして、一般の人は宗教家であっても朗らかで楽しい人なのだと思われるわけです。もう一つは英語を少し知らないとわからないのですが、電気掃除機ってありますよね。「お釈迦さまはなぜソファの下を電気掃除機をかけることができなかったのですか」という質問です。英語では、

「Why couldn't the Buddha vacuum under a sofa?」といひます。

答えは、

「Because he had no attachment.」

「attachment」という言語の意味は2種類ありまして、伝統的な意味は「執着」ということです。もう一つは、狭いところを掃除するため、先に付ける「付属品」のことです。ですから、仏陀は「アタッチメント」を持っていなかったというところで、アメリカでしたらすぐに笑って下さるのですが、皆さん一人ひとり考えていらっしゃるようですが、だいたいわかりましたよね。まだわからない人は手をあげて下さい。ジョークを説明するほど空しいことはないのですが。(笑)

仏教検死官がいました。皆さんのように仏教徒で非常に熱心な方で仕事の場にも仏教的な価値観を持ち込んでいたそうです。検死官はなぜ死んだのかという死因を追求しなければなりません。心臓麻痺とか脳溢血とかいう具合にね。しかし彼はどの人の検死についても「それは生まれたからだ」と…。これ、結構面白いですね。

仏教は、輪廻転生というよりも、生死の世界に生まれて死んで、生まれて死んで、生まれて死んで…」我々が人間として生まれてきたのは、未だ覚っていないから生まれてきたのです。覚えていたら、また生まれてくる必要がなくなります。それなのに「なぜ生まれてきたのか」、そして「なぜ死んだのか」というと「生まれてきたからです」という答え、ジョークです。これが九つのアメリカ仏教の特徴です。これらについて日本とどこが違うのかということをお考えになって下さい。

【プロジェクト・ダーナ】



○ 御遠忌通信



社会参加というところで浄土真宗から発生しました一つ、グローバルなものがハワイにありまして、プロジェクト・ダーナといいます。プロジェクト・ダーナの活動について紹介します。

プロジェクト・ダーナは1989年オアフ島ホノルル市内、本願寺ハワイ教団のモイリリ利本願寺から始まった新しいボランティア運動です。合衆国でも最も高齢化の進んで

いるハワイ州で、体の弱られたお年寄りや病気や障害を持つ方々が、施設に收容されるのではなく、住み慣れた自宅で健康的に人間らしい誇りを持ちながら、自立した生活がしたいという願いを援助するためにプロジェクト・ダーナが企画されました。日本国内では、お年寄りや障害者の自立した生活が困難になると病院や施設に收容することで問題の解決にあたってきましたが、アメリカのお年よりは最後まで自分のプライベートな生活を大切に、誇りを持って自立して生きていきたいという強い願いを持っています。プロジェクト・ダーナは、仏教語です。「ダーナ」、これは布施の行いを根本精神としています。日系人の仏教徒から起こったこの運動は、見返りの報酬を求めない私心を離れた報恩感謝の行いでなければならぬとハワイの人々は考えました。ダーナは、インドから伝わった仏教の言葉です。日本の言葉に訳されて、「旦那（だんな）」、そして「喜捨（きしゃ）」とも訳されました。布施は、お金や財産による施しだけではありません。温かいまなざし、にこやかな表情、優しい言葉、精一杯の行い、慈しみ深い心で身近な人々に接し、共に明るく励まし合って生きることも布施の行いです。布施の行いは見返りを求めません。むしろ、布施の行いをさせていただくことによって自分自身の生き方が自己中心の心から少しでも離れて、広い豊かな人生に移させていただく、そのための実践なのです。プロジェクト・ダーナのボランティア活動は厚意ある家庭訪問、お年寄りの家庭を訪問し、話し相手の友達になるボランティアです。介護者の救援、アルツハイマー病や寝た切り老人に付き添って、日夜看護を続けている家族の方に、ほんの2～3時間でも自分を取り戻す休息の時間がうまれるように介護を代わってあげるボランティアです。電話による会話や励まし、家庭にいながらお年寄りや看護の家族を励ますことができる電話ボランティアです。車での送り迎えのおつかい、体の不自由なお年寄り、看護で手が放せない家族のために、買い物を代わってさしあげたり、病院通いを手伝ったり、お寺への参詣の時、車に乗せることもあります。ごく簡単な修理や修繕事、体の不自由なお年寄りの身の回りの掃除や修理などを手伝います。ボランティア会員は、活動中の事故や災害に備えて全米ボランティア協議会の保険に加盟しています。プロジェクト・ダーナは、ホノルル市をはじめとして福祉サービスや老人問題に取り組む60以上の病院や研究所、ボランティアグループ、

○ 御遠忌通信



行政、企業などと提携し、お互いの役割を認め合いながら活動しています。ボランティアの皆さんは、自分の1週間の時間の中で、毎週無理なく続けていける2～3時間を使って一人暮らしの老人や病人を抱えた家庭へのボランティア活動を行っています。

1993年10月には、ローザリン・カーター、前カーター大統領夫人が創設したローザリン・カーター賞の最初の受賞に輝き、一躍全米の注目を浴びました。(略)

このように浄土真宗のお寺から発生した社会活動です。ダーナは布施という意味で、そうした理念のもとにホノルル市をはじめとして仏教、宗教の枠を超えてキリスト教の人たちも関わっておりまして、一般の人たちも参加するようになりました。このようにしてですね、仏教的理念が社会参加に発展した一つの例です。

【「四法印」に対するナイト・スタンド仏教徒の捉え方】

今までアメリカ仏教を客観的に捉えてどういう現象があったか申し上げましたが、今度はアメリカ人がどのように仏教を捉えているかという一例を挙げたいと思います。それは、アメリカ人仏教徒や「ナイト・スタンド仏教徒」の考え方についてです。「四法印」ということをご存知だと思いますが、一切皆苦、諸法無我、諸行無常、涅槃寂靜とありますよね。これは原始仏教において「四法印」といいます。これは、仏教の根本的な考え方でありまして、私は非常に強調しております。特に日本での法話は宗派としての法話で始まっており、親鸞聖人から始まっていく。このことは正しいことですが、初心者にとっては非常に高度で難しいのです。

一方、アメリカではほとんどの人が仏教のことを知らないですから、浄土真宗の法話でも先ず、初期仏教の話から始めます。私は日本においても同じ事だと思っております。私は初歩仏教、初期仏教の話として「四法印」がとてもわかりやすいと思います。「人生はスムーズである」という誤った考えに対し、「四法印」にある一切皆苦から読み取れる「人生は凸凹道である」ということは正しい考えであることがわかりますね。ですから、我々は基本的には「人生はスムーズである」という誤った考え方を本能的にするのです。だから仏教を通して（「人生はスムーズである」から「人生は凸凹道である」に）転身する。転身を言い換えれば親鸞聖人の仰った信心とか回心ということです。一切皆苦という言葉は難しい言葉ですから私は、「人生は凸凹道」というのです。これを英語では

Life is Bumpy road

一般の人に対して「一切皆苦」という言葉はすべてが苦という意味で捉えると大変きついイメージが湧いてしまうので「人生は凸凹道」という具合に話します。誤った考えは「人生はスムーズである」ということで、人生は思い通りになるという考えは、仏教的に誤った考え方です。現代、一般の世俗の考えとしては当たり前かもしれないけれども、仏教の考え方に基づくと違います。そのように対比

○ 御遠忌通信



してですね、

Think BIIG

Don't Think SMAL

これは「BIIG」というのは「大きい、でっかい」です。「くよくよしないで心を開いて大きく考えよう」ということです。英語では「Think Big」という一句がありますが、ここでは「i」が1つ多いです。言葉あそびになりますが、「BIIG」の頭文字は、次の四法印の頭文字、枠で示した箇所を綴りにしているために「i」が一文字多いのです。

一切皆苦 人生は凸凹道である

Life is **B**umpy road

諸法無我 人生は縁起である

Life is **I**nterdependent

諸行無常 人生は無常である

Life is **I**mpermanent

涅槃寂静 人生は根本的に良いものである

Life is fundamentally **G**ood

続いて四法印に対する誤った考え方につきましても、同じように紹介しますと

一切皆苦 人生はスムーズである

Life is **S**mooth

諸法無我 人生は私のものである

Life is **M**ine

諸行無常 人生はいつも同じである

Life is **A**lways the same

涅槃寂静 人生はつまらないものである

Life is **L**ousy

英語としては、「L」が一文字足りないのですが、先ほどの「BIIG」と同じように、今度は四法印に対する誤った考え方について枠で表記している頭文字4文字を綴って「SMAL」、「スモール」と発音しております。これらは私の『真宗入門』という本で紹介しており、広く知られているところです。入門的にはとても良いですよ。

【一切皆苦・フィル・ジャクソンの考え方】

では、アメリカ人の考え方として先ず、四法印の1つ目に挙げました「一切皆苦」については、先

○ 御遠忌通信



ほど話をしたフィル・ジャクソンの考え方を紹介します。彼はNBAのプロバスケットボールチームの監督を務め、11回優勝に導いており、日本でいうと長嶋茂雄と同じくらい有名です。ちょうど、日本シリーズを11回優勝したようなもので、アメリカ人で知らない人はいないくらいです。この方は仏教徒とは言えないかもしれませんが、仏教同調者、これを「ナイトスタンド・ブディスト」といいます。シカゴにある本願寺のお寺の住職の話では、フィル・ジャクソンが時々お寺に来て後ろのあたりに座って静かに法要に参加して、法要が終わるとそっと帰って行くそうです。何も他の人たちから注目を求めている様子であると聞いております。最もジャクソンは禅に惹かれて興味を持っているようです。

彼は「一切皆苦」という言葉、教えを非常に重要視しています。ある意味で、成功、成功、戦いが激しいですね。ですから、戦いに負ける人もうまれますね。負けるということは失敗だと考える人も少なくありません。しかし、彼は仏教では負けるとか失敗ということは決して悪いことではなくて、それをバネとしてまた生きていくための教えであると強調していました。コーチとしても監督としてもそれを応用して、またメディテーションも応用したようです。マイケル・ジョーダンというスーパースターも指揮していたのです。ですから、負けても、失敗をしてもそれは駄目だということではなくて、方向を転換する時期と捉えて「バネ」としなさいという考えを持っていたようです。

「仏教では、死を受け入れることによって、生きることを発見すると言う。同じように、負ける可能性を認めることによってのみ、試合の喜びをフルに感じるができるのである。」（「一切皆苦」に対するフィル・ジャクソンの捉え方より）

彼は「善と悪」、「楽しいと苦」というものを二元論的に見るのではなく、両方が人生であるということをも仏教に求めたわけです。

【諸法無我・リチャード・ギアの考え方】

次は「諸法無我」。これは、「人生は縁起である」とか、「インターディペンデント」(interdependent)という言葉で、「インター」が「相互」、「ディペンデント」は「依存」という意味を持ちます。アメリカ仏教はこれを非常に強調して「インターディペンデント」という言葉を仏教用語のキーワードとして他に「カルマ」とか「業」があります。しかし、注目される言葉としては「インターディペンデント」という言葉でして、この言葉が元になって社会参加ということが強調されているのです。

私は、リチャード・ギアのことを非常に尊敬しているのですが、理由の1つには、彼は批判をされても仏教を説いていくのです。その一例として、9.11事件、同時多発テロ事件がありましたね、その後に遺族を前にして追悼法要がニューヨークで行われました。彼も1人の演説者として呼ばれ、その時に彼が何を言ったかという「我々は加害者に対しても同情しなければならない」と言ったのです。なぜかという仏教の業の教えによれば、彼らは悪いことを行ったので悪い結果を受けて苦し

○ 御遠忌通信



むのです。悪いことを行ったことは事実だけれども、彼らも苦しむという結果になるため、「我々も彼らに少し同情しないとイケない」と言ったのです。そうしたら、遺族はどのように思いますかね。遺族は怒りますよね。遺族は「我々の家族が殺されたのに加害者に同情するのか」と。それでもリチャード・ギアはチベット仏教を非常に強調するのです。「業」や「カルマ」など、仏教ではとても重要視されています。日本では運命とか業を背負って生きるなど、そうした意味だけではなく、もっと積極的なことです。業というのは行いなのです。どのように考えて、どのように行動するのか、どんな業を行うかによって幸せになるか不幸になるかが決まる。ですから、悪いことを行えば悪い結果を招くということを教えによって説いたリチャード・ギアでしたが、ブーイングを受けて彼はステージから去って行きました。彼は自分の資金を使って様々な慈善事業を行い、インドの仏教徒とともにアメリカで社会活動、社会参加に非常に尽力されています。

リチャード・ギアの「諸法無我」に対する一つの捉え方を次に紹介をします。

「最終的に、(私が行っていることは) 皆のためです。それは、皆が苦悩から脱する迄は、誰も苦悩から脱せられていないということです。　　そうでしょう？それほど我々は繋がっているのですよ。」

（「諸法無我」に対するリチャード・ギアの捉え方より）

最後の言葉、「我々はそれほど繋がっているのですよ」ということ、仏教に少しでも目覚めた人はこのような気持ちになるのです。これは覚りの一角です。無我ということとは、私が存在するということではありません。自立しているのではない、生かされているということなのです。リチャード・ギアはしっかりとそれらのことを理解して、できる限り菩薩的なことを言っているのです。「皆が苦悩する、ただ脱するまでは誰も苦悩から脱せられない」と。宮沢賢治も同じような事を言っておりますね。これは目覚めた人には共通することなのです。彼らに頭が下がるところは、彼らは目覚めの内容を実践していくところです。

私は2年後に彼を招待したいと思っていますのです。仏教映画祭を企画したいのです。リチャード・ギアに来ていただいて、「リチャード・ギアも仏教徒ですよ」という点をアピールして、多くの人々の仏教に対する意識を変えていきたいのです。これは夢の夢ですけども、ぜひこのことが実現すれば、私に連絡をください。チケットをいくらで買っていたらいいのでしょうか（笑）

楞伽經（りょうがきょう）とは面白い経典です。「物事は、思っているようではありませんよ。だけど、また、そうでもありませんよ」。ここが仏教の深いところでして、「このように思っているのだけれどもそうじゃない」という指摘があり、傲慢なことを言っているところで再び「それでもないのだよ」と否定される。つまり、あまり先入観を持たない方が良いということです。

【諸行無常・モーリー教授の考え方】

三番目の「諸行無常」です。これは大学教授が難病で亡くなっていく様子をテレビで見た元生徒が、

○ 御遠忌通信



唯一尊敬した先生のために、先生が亡くなられる数ヶ月前に1～2度、飛行機に乗って会いに行くのです。そこでの交流の様子について日本語にもなっております。この先生は仏教徒でもナイトスタンド・ブディストでもありません。「それは、仏教徒のようにしたら良い。彼らは、小鳥を自分の肩にのせて、その鳥に『今日こそが、その日だろうか?』、『私の用意はできているか?』、『成し遂げることは全てやっているか?』、『自分がなりたい自分になっているか?』、と聞かさせているのだ。」「諸行無常」に対する モーリー教授の捉え方より)

「諸行無常」ということは、先ほど申しましたように、「ただ、ただ悲しい」ということではなくて、もっと今を精一杯生きるということです。また、いつ死ぬかわからないので、死んでいく状況にあるならば、「もう、用意はできているか」と考えるのです。ですから、私が真摯に教えを求めれば、教えが身についてくると思います。このように「死ということ」を真摯に、真剣に受け止めてもらうことによって何か自覚していくのではないかと。信じることも大切ですが、訳のわからないことを「信じる」と言うことは宗教、仏教ではありません。仏教は「目覚める」宗教なのです。私は、浄土真宗も「目覚める」宗教だと思います。信心ということとは、「目覚める」ことです。ある意味で目覚めなのです。親鸞の『智慧の教え』という論文を用意しております、いろいろな学者に親鸞聖人の仰る信心ということとは、訳のわからないことを「信じる」のではなく、「目覚める」のだという考えを論証してしっかりと強調しています。

【涅槃寂靜・ティナ・ターナの考え方】

次に涅槃寂靜ですが、ここに見られる「寂靜」ということは、心が穏やかになるということです。「ニル・バーナ」ということは、「涅槃」ということでありまして、死ぬことではありません。日本では死ぬことが涅槃だと思われておりますが、涅槃ということとは、煩惱が消えたということです。涅槃の漢字というものは、漢文としては、特に意味がありません。これは、「ニル・バーナ」という言葉を音写したものですからね。その意味は「煩惱が消えた」ということとして、先ほど「アタッチメントが消えた」と申しましたね。ですから、お釈迦さまが、電気掃除機をかけることができなかったということなのです。アタッチメントは執着しない、手放すという意であり、お釈迦さまは初めから執着していませんからね。

ティナ・ターナをご存知ですか。年配の方であればご存知かと思えます。アフリカ系アメリカ人としてとても有名な歌手です。彼女は創価学会に入信しております、ただ創価学会の組織に関わっているわけではありませんが、お題目、南無法蓮華経に救われたと仰います。パソコンでティナ・ターナを検索しますと1分間ほど題目を唱えている動画がありますから、是非ご覧になって下さい。歌手ですから、魅力的に唱えていらっしゃいますよ。彼女が言うには

「自分の運命を変えるのは自分でしかない」(涅槃寂靜 に対するティナ・ターナの捉え方より)

○ 御遠忌通信



業、カルマということに出会った彼女は、家庭内暴力を亭主から受けていて、非常に悩んでいたときに教えから、自分の行為、行動によって自分の人生を変えることができるのだと教わって、それ以降、仏教徒になっていくのです。ですから、こちらに紹介しました方々は四人ですけれども、四法印についてこのような考え方があると示して下さいています。少し伝統的な考え方と異なるところがありますが、基本的には、日本の若い人たちもこのような理解をすることによって、納得していただけるかと思います。私は授業で、毎年千人の学生に教えておりますが、これらのことを中心に話をしますと、半年後には「仏教を学んで良かった」と言う学生が、私が言わせなくてもそうした言葉を聞きます。そのように日本の若い人もこうしたことを求めている。また、このような理解のもとで、先ず、仏教を好きになってもらうことが大切です。

【アメリカ仏教が伸びる要因】

なぜ、アメリカで仏教が伸びているのかという要因の一つにアメリカにおいて宗教が重要視されているということです。数年前に調べた統計では、1ヶ月に最低1度、教会、あるいは宗教施設に通う人は何パーセントだと思われませんか。答は、「57パーセント」です。非常に多いですね。57%の大人が、子ども含めるかもしれませんが最低1月に1度は教会や宗教施設に足を運ばれるわけです。1週間に最低1度の場合におきましても33%なのです。ただこの場合、若い人たちにつきましては少し減っております。けれども宗教は非常に重要視されておりまして、アメリカの大統領になるためには「宗教は嫌い」と言いましたら大統領には成れません。日本では「宗教が嫌い」と言いますと総理大臣になれます。つまり、日本においてはあまり宗教を持ち出さない方が良いでしょうね。

さらにもう1つは、宗教情勢が変わったということです。クラーク・ルーフの説によりますと4つの見方があります。

- ① 新しい多様性
- ② 新しい選択精神
- ③ 新しい形態
- ④ 新しいスピリチュアリティ

①の多様性というのは仏教のような新しい宗派を受け入れやすい環境にあるということです。昔は、プロテスタントでなければ差別されておりました。1960年にケネディ大統領がカトリックとして大統領になりまして、これは画期的なことでした。それほどプロテスタント中心の国でありましたが、それ以降、ユダヤ、キリスト教徒以外のことも受け入れられるようになりまして、仏教もうけいられるようになりました。

②で示した選択精神というものは、プロテスタントでは、3分の1の人たちが宗派を変えるのです。日蓮宗から天台宗、天台宗から浄土真宗のように個人は宗派を変えても良いような雰囲気になってお

○ 御遠忌通信



りますので、キリスト教から仏教徒になっても大きい問題はありません。そのような面では、日本とアメリカは事情が異なっております。宗教は個人の問題ですから個人が納得さえすれば変えても良いという精神なのです。もちろん家族が反対する人もいらっしゃるでしょうが。

③の新しい宗教の形態、メディテーションを受け入れられる環境。昔は、お寺の檀家になってお寺での行事にすべて関わっていくような在り方、アメリカでも同じように教会のメンバーになって会費を支払ってすべてのことに関わるという具合であります。最近では忙しい人が多いためにそのような関わり方を嫌う人が増えてきています。日本でも同じことがあてはまります。では、どうしたらよいか。1つでも良いから、1つでも興味のあることに関わりましょうと呼びかけるのです。例えば家庭問題、家庭内問題について教会で座談会を行うのです。そのことに興味を持つ人はそれだけに参加するのです。そして他のことに参加しなくても良い。日曜礼拝に行かなくても良い。会費もメンバーとして支払わなくても良い。けれどもその人は教会に関係を持つようになっていくのです。このような人々の動きは日本においても寺院経営についても同じようなことが考えられると思います。「檀家にならなければお寺に来ないで下さい」と言うならば、人はたちまちお寺から遠ざかります。けれども1つでもいいから何か関係を持つようにする。ですから、日本のお寺においてお葬式、死者儀礼だけ行っていると選択の幅が少なくなってきました。人々が関わっていけない。お寺でも家庭内問題、環境問題、スポーツ大会とか広い敷地を利用して先ず人の集まる場としていきたいですね。岡崎教区教化テーマ「寺をひらかれた念仏の道場に」ということを考えますと「念仏だけ」とすると限られてしまいますのでピクニックに来て下さいというのです。今の連ドラではありませんが「念仏ケーキ」でも考えられると良いと思います。(笑)「念仏ケーキ」ってどんな形になりますか。皆さんで考えてみてください。「念仏ケーキ」ってどんな形になるか来ていただいた皆さんで考えていただくのですよ。アメリカの教会はそういう取り組みに気がついて、人々は遠いところに住んでおり、なかなか教会に入っていない。そして人々は忙しすぎる。若い人はパソコンに忙しくて実際に教会に足を運ぶことが難しい。これらは、社会が現代化している1つなのです。生き方、生活のスタイルが変わってきているのです。

④の新しいスピリチュアリティ(テレビ等で人気を呼んでいる怪しいようなものとは異なる意味)というのは、お寺ですから、お寺だけしかできないことは宗教の根幹であるし、覚り、目覚め、信心ということ、この点については妥協してはいけないと思うのです。また、それらをしっかりとわかりやすく説くことによってお寺という独自性を持つことができます。そしてこれ、書き留めておいていただきたいのですが、スピリチュアリティとは基本的には個人の範疇での課題なのである、団体ではない。「個人」「聖なる」「体験」という三つが現代社会における宗教の大きな特徴なのです。体験ということを強調する、俗ではない、聖なるものである。そして個人である。お父さんお母さんがどのように思うかではなく、人間として生まれてきた私自身にとってどうであるのかということです。

○ 御遠忌通信



弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば

ひとへに親鸞一人が為なりけり『歎異抄第二章』

『歎異抄』に見られますように、親鸞聖人はしっかりと、宗教の根幹を指すスピリチュアリティーということを抑っています。

【その変貌と日本仏教への示唆】

最後に「その変貌と日本仏教への示唆」ということについて、「平等化」という社会の変動について女性僧侶の活性化と在家者の適用ということをもっと考えなければならぬでしょう。先ほど申しましたように、ご門徒の中には専門性の知識や経験を持った方が多くいらっしゃいます。女性の僧侶ももっと出てきていただきたいですね。女性は別な視点を持っていると思います。

「理性化」というのは、浄土真宗では信心という究極的な目覚めがありますけれども、それを説いていく過程において、もう少し理性化と言いますか、誰でもわかるような教えである「諸行無常」「一切皆苦」「涅槃寂靜」という、ある意味で哲学的なものから入っていただいて、それを究極的に深めていくことによって「阿弥陀さま」とか「お念仏」ということがわかってくるのです。また、理性化に対して普遍性のある教えということも強調すべきだと思います。

「多様化」というのは、同じような話だけではなく、別の宗派、別の宗教、または宗教以外の考え方を持っていていらっしゃる方をお寺に招くということを実践していくことによって、真宗ということがもっと他の宗教、教えとどのように異なるのかということがわかってくると思われまふ。同じようなことばかりを説いていると、全体像が見えないということが言えるでしょう。そして、少し視点が異なりますが、仏教は多様というグローバル化した社会に寛容であるから、もっと世界的に伸びていくと思います。一神教のような絶対性のもとにある考えよりも、目覚める宗教としてはもっと広い視野をもって他者も受け入れられる、他者も同じような価値があると認めていくところに仏教の考えがあると思います。

「世俗化」というのは、死者儀礼だけではなく、日常生活のニーズに対応するあり方。

「個人化」というのは、伝統というものだけを強調するのではなくて、求める人、求道者の立場から教えを考えていく。これは、当然と言えば当然であります。そう言いながらも伝統という権威のもとに教えを説いていった経緯もありますから、現代の社会では、それだけでは通用しませんよということを感じますね。特にアメリカでは求道者が納得しないと「浄土真宗は750年の歴史がある」と言ってみても、「So What?」日本語に言い換えれば「それで?」と言われてしまいます。日本も同じような状況になりつつあります。ですから、目覚める宗教というのは、既成教団も含めて皆が目覚めていかなければならないということです。

それではここで私の話を終わりとさせていただきます。ご清聴有難うございました。